

金沢市立泉中学校

[はじめに]

本校は金沢市の中心部に位置し、昭和22年4月に開校した。全校生徒は476名、教職員は37名である。

校区の北は金沢一の繁華街片町、犀川河岸に接し、歴史ある寺町寺院群、にし茶屋街などの伝統的なまちなみ、金沢仏壇、水引、九谷焼、和菓子など金沢の伝統文化が息づく野町校区。南は文教地区として知られる弥生校区。さらに近世の入り組んだ道筋が残る中村校区からなり、金沢に見られるさまざまな特色を併せ持った地域である。

今年度、ユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・国際理解を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

「ともに生きる」

～「関わり」、「つながり」を学ぶ3年間のとりくみ～

1 ユネスコスクールとしての取組

泉中学校では総合的な学習の時間をIT（泉タイム）と呼称し、3年間で6つの学習テーマに分けて学習している。「身のまわりの自然」に始まり、「地域」、「日本」、「世界」へと学習範囲を広げながら、自身との関わりを見つめ、「自分をとりまく社会全体」に関するテーマ学習へと続く、一貫した流れを計画した。ITの実施にあたっては、体験学習を積極的に取り入れながら、自然環境や社会との「関わり」「つながり」を学び、持続可能な社会の担い手の育成を目指している。

1 年

I期<自然とともに>

- ・動物園訪問
- ・テーマ別研究、発表
- ・自然体験学習

II期<金沢を知ろう>

- ・テーマ別研究
- ・伝統文化体験

2 年

II期<金沢を知ろう>

- ・市内班別自主研修

III期<人とともに>

- ・キャリア体験学習

・まとめ、発表

IV期<日本を知ろう>

- ・自主散策プラン作成

3 年

IV期<日本を知ろう>

- ・修学旅行

V期<世界を知ろう>

- ・講演会

・テーマ別研究、発表

VI期<社会とともに>

- ・テーマ別研究、発表

I期 自然とともに

いしかわ動物への自然体験遠足を行い、環境やエコ活動について考える機会を設けた。その後環境についての知識を深めるためのビデオ視聴を行い、新聞から環境に関する記事を集めてまとめるNIEの作業を行った。これらの学習をもとに、各自がテーマを決めて研究活動を行った。ここでは資料の集め方やまとめ方などについて学び、学習成果をクラスで発表した。優秀な研究については学年での発表会も催した。生徒は幅広く環境問題に関心を持つとともに、自分たちに何ができるのかを考察し、まとめることができた。文化祭では環境に関する掲示も行った。



II期 金沢を知ろう

1年ではウェビングにはじまり、金沢のまちなみ、世界の金沢、景観保全、伝統工芸の4つからテーマを決めて調べ学習を行い、レポートを掲示した。その後、金沢の伝統工芸について学習し、金箔・和菓子・水引・加賀繡・加賀料理・お茶の6分野で体験学習を行った。体験学習では専門家からの直接指導に、興味深く取り組む生徒の姿が見られた。



2年では金沢の学習のまとめとして、市内班別自主研修を行った。生徒自ら見学地を決定し、班ごとに協力して計画を立てて実施した。この研修の成果を模造紙にまとめ、授業参観などで掲示した。この活動を通してより深く地域を知ることができ、金沢の再発見につながった。

Ⅲ期 人とともに

体験事業所との連絡や打ち合わせ、下見を経験するなかで「仕事」への関心を高め、事前学習として（株）浅田屋の営業部長さんの講演会では、働く意義について学習した。勤労体験学習当日は普段と違う生活にとまどいながらも、地域で働く人々とふれあい、地域社会の営みについて知ることができた。また、自分の進路を考える上でよい機会となった。学習成果はまとめて文化祭で展示し、プレゼンも行った。



Ⅳ期 日本を知ろう

2年では日本の文化、歴史を知るために日本の伝統を色濃く残す京都について学習した。京都の歴史的建造物などについて、各自でテーマを決めて調べ、発表した。そして、発表内容をもとに、来年度の修学旅行の京都班別自主研修のモデルプランの作成を行った。複雑なルート設定やバス時刻の確認など、計画立案に関するより高度な技術を身につけることができた。



3年では修学旅行を実施した。前年度作成したモデルプランを活かした京都班別自主研修を皮切りに、京都、大阪、奈良をまわった。学習内容は旅行記という形でまとめた。2泊3日の旅行を通して、古都の名刹にふれながら現代に残る日本独自の文化、伝統を知り、企業見学では日本の近代産業の勢いを感じることができた。

Ⅴ期 世界を知ろう

ウェビングで視野を広げながら、現在の世界情勢について新聞スクラップを作成してNIE活動を行った。また、日本人学校勤務の経験をもつ3名の教員を講師に招き、国際理解に関する講演を実施した。そしてこれらの学習をふまえ、日本と世界のつながりや交流の現状から課題を設定し、研究、発表を行った。公民の学習とも関わりもあり、生徒は高い関心をもって世界の動きに目を向けることができた。



Ⅵ期 社会とともに

3年間のITを通して学んだなかから各自が課題を見つけ、グループをつくり、卒業研究を行った。これまで学んだ研究方法を活かして、さまざまな視点からテーマを決定して取り組んだ。研究成果はプレゼンとしてまとめ、学級発表、学年発表を行った。学年発表は授業参観で行い、多数の保護者が来校した。



2 成果と課題

①ユネスコスクールのテーマについて

さまざまな体験活動や講演を通して、学習テーマと自分との関係をより深くとらえることができた。特に3年の研究発表では金沢観光の振興や環境破壊など、問題を身近なものにとらえ、設定した課題についての情報をまとめる作業にとどまらず、自らの考えを提言するなど、社会を構成する一員としての自覚の高まりが見られた。

②カリキュラムの作成上の工夫等について

6期それぞれのテーマをより深くを探究するために、「各自のテーマ決定」、「テーマについての調査研究」、「レポートの作成」、「発表」という流れを取り入れた。生徒は多くのレポートを作成していくなかで、さまざまなスキルを身につけることができた。その結果、情報を取捨選択して簡潔にまとめたり、工夫して見やすく仕上げる力。声量や速さ、アイコンタクトなどを意識した発表能力など、資料を活用する力や学習成果を表現する力において、向上が見られた。

③他校への情報の発信、ネットワークづくりについて

情報の発信という点では文化祭での展示、プレゼンや3年の保護者を招いての学年発表会など、地域にむけての情報の発信が主であった。また、レポート等の学習成果はデジタルカメラで写真に残し、電子データという形で保存した。学校ホームページではデータを編集したファイルを公開し、情報の発信にあたっている。今後は他校との連携も視野に入れていく必要がある。